

経営比較分析表（令和4年度決算）

広島県三次市 市立三次中央病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	25	対象	ド透Ⅰ未訓ガ	救臨がへ災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
49,557	23,120	-	第2種該当	10：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 Ⅰ…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
350	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	350
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
350	-	350

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の両側・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

救急医療や周産期母子医療においては、備北圏域のみならず、安芸高田市・世羅町など広島県三次市の隣接市町や島根県南部にわたる広域の二次救急を担っている。
また、へき地医療拠点病院の指定を受け、圏域内外の病院や診療所に医師を派遣するなど、地域医療に貢献している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金もなく、経常収支比率は100%を超えている。
医療収支比率においては平成30年度より100%を下回っているが平均値より5.7ポイント上回っている。
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が流行の拡大と縮小を繰り返し、重症患者は減少したものの、これまでを上回る新規陽性患者が発生した。結果として、入院・外来収益ともに、前年度より持ち直したので医療収支比率は改善した。令和4年度における病床利用率は、コロナ陽性患者の受け入れに係り、一部病棟を休止したため、全国平均より5ポイント低くなっている。
無菌治療室の設置により血液内科の治療が増えたことで、入院患者1人1日あたり収益を大幅に増加させることができた。

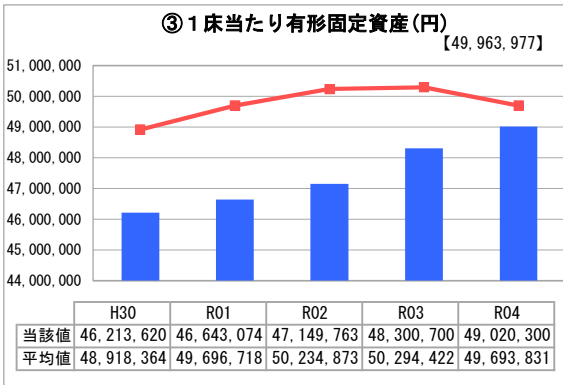
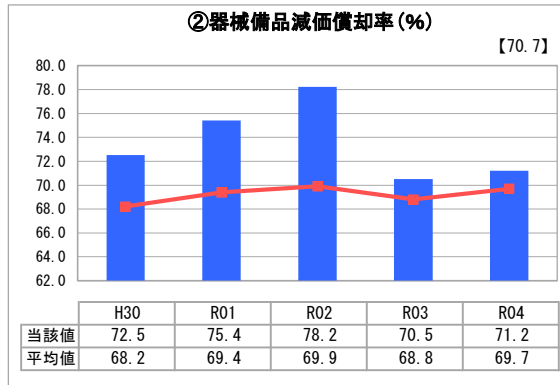
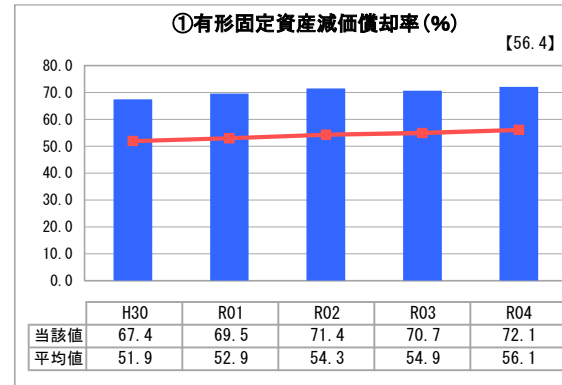
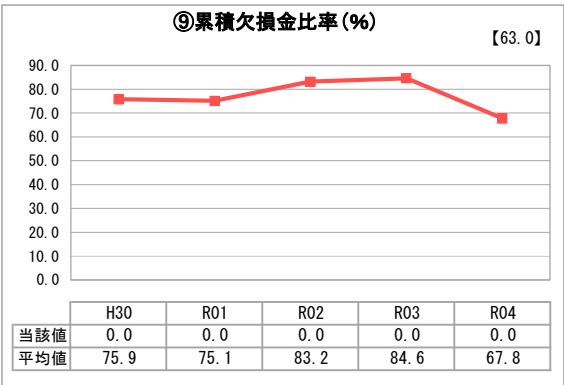
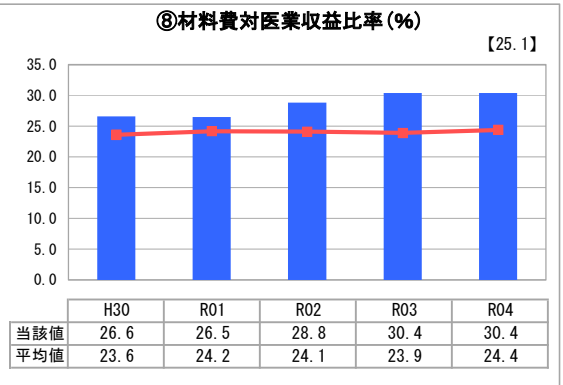
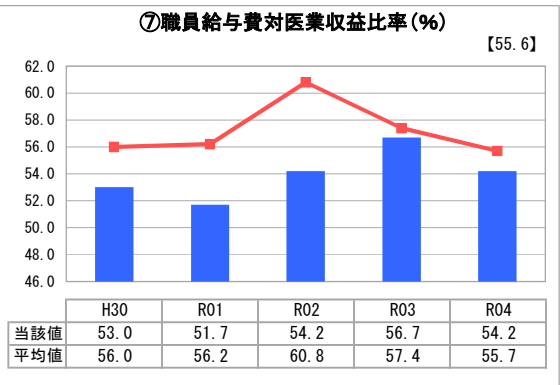
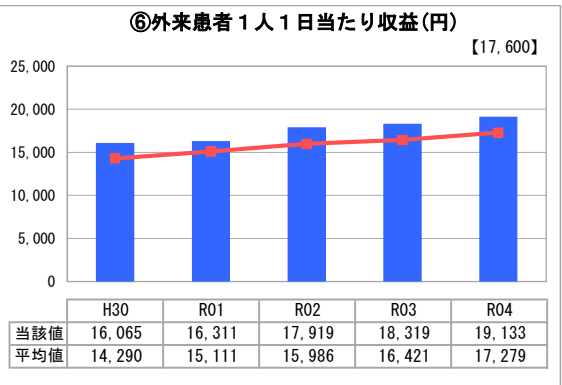
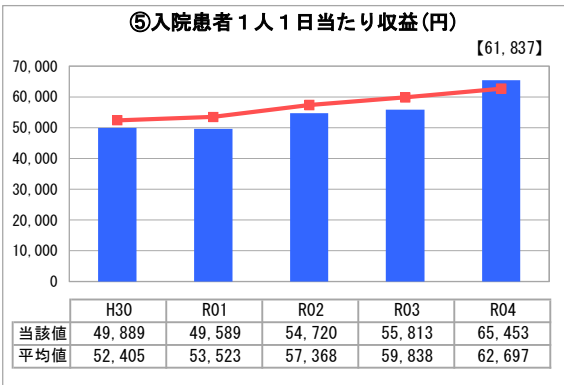
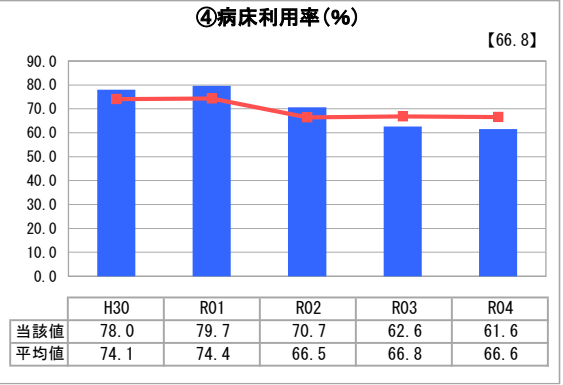
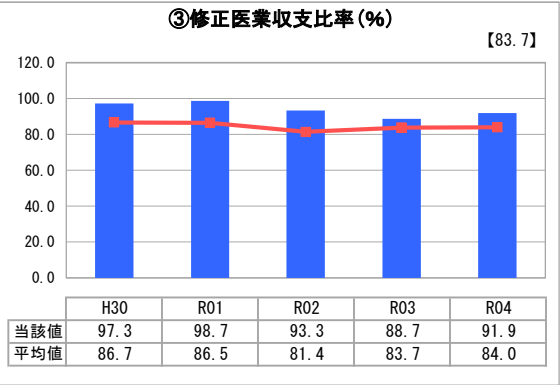
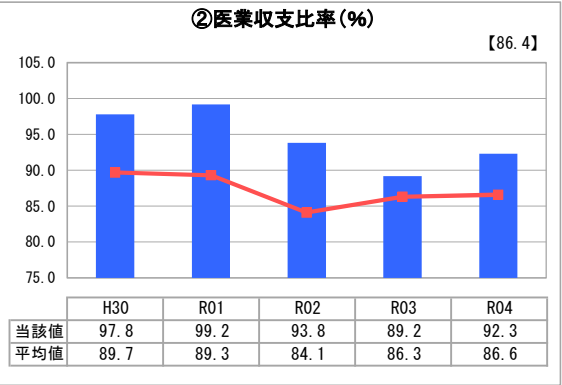
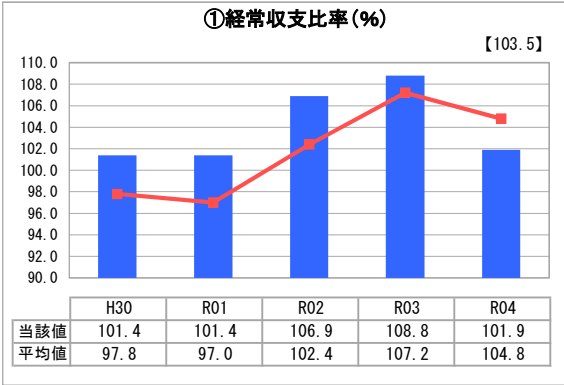
2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は平均より高いが、経常収支比率は100%を上回っているので、施設の老朽化は進んでいるが、更新投資を経常収益で賄える状況にある。
既存空調設備が対応年数を大きく超過し、故障や部品交換が頻発しており、令和4年も昨年度に引き続き空調設備更新工事を行った。
また、停電時の発電機起動や非常照明の電源となっている直流電源装置も故障し、仮設電源装置で対応していたため、更新工事を行った。
なお、令和2年度に施設内配管老朽化調査を行い、総合所見で「病院の建替えを検討する必要がある」とされたため、令和3年度から建替えに向けた計画策定業務などに取り組んでいる。

全体総括

地域医療支援病院として、近隣の医療機関との連携を密にし、地域医療連携活動を通じて地域に必要な医療の提供や、患者の紹介・逆紹介、入退院の調整や退院後の支援強化など、医療環境の充実に努めている。
令和4年度はコロナ禍の影響はあったものの比較的限制的であり、医療収益は改善した。継続して収益を上げ、費用を下げるための経営分析を行い健全経営に努めていく。
また病院改築に向けて「市立三次中央病院建替基本構想検討委員会」を設置し、市民の皆様や有識者の意見も伺いながら、新病院の役割、主要機能、病床数・病床種別等を定めた「新病院基本構想」を策定した。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。